

## 単3中性線欠相保護付漏電遮断器

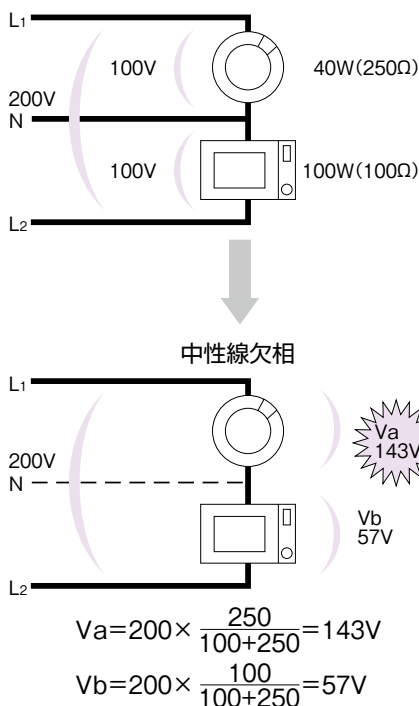
テンパールの単3中性線欠相保護付漏電遮断器はJIS C8222 付属書XBに基づいて製作しています。

JIS C8222 付属書XB	定格動作過電圧	135V
	定格不動作過電圧	120V以上
	定格過電圧動作時間	1秒以内

単相3線式回路において中性線が何らかの原因で欠相状態になりますと、その回路の負荷状態において電圧が不平衡になり負荷機器に過電圧が加わり負荷機器の焼損、絶縁劣化などの事故を生ずることがあります。例えば右図のように中性線欠相が起った場合100Wの負荷機器に57V、40Wの負荷機器に143Vの過電圧が加わるようになります。この過電圧により負荷機器の寿命が短くなったり焼損することがあります。

GBU(単3中性線欠相保護付漏電遮断器)は135V以上の過電圧で1秒以内に遮断しますので負荷機器を過電圧事故から確実に保護します。テンパールの住宅用分電盤は、この単3中性線欠相保護付漏電遮断器が標準組込です。(ただし単2の分電盤は除く)また、テンパールの単3中性線欠相保護付漏電遮断器は全日本電気工業工業組合連合会の推奨品です。

全日本電気工業工業組合連合会 推奨品



### ■ 絶縁測定時の注意事項

下表の△印のところの絶縁測定は、測定しても故障しませんが内部回路により、絶縁抵抗計の指示値はほとんど零です。線間の絶縁測定をされる場合は、端子から電線を外して測定ください。

単3中性線欠相保護付漏電遮断器	絶縁抵抗測定 (500V以下)	
	ON	OFF
ハンドルの状態	○	○
充電部—大地間	○	○
左—中、中—右極間	△	△
左—右極間	電源側	○
	負荷側	△
電源—負荷端子間	—	○

## 内線規程について(要約)

### 1375-1-5

住宅の回路には漏電遮断器を施設すること。

### 1375-2-5

単相3線式回路に施設する漏電遮断器は中性線欠相保護機能付のものとする。

### 1375-2-6

漏電遮断器を引込開閉器と兼用させる場合は、過電流保護機能付とする。

### 1365-1-3

配電盤および分電盤はレンジなど火気を使用する場所の上部以外の乾燥した場所に施設すること。ただし、それぞれの環境に適応する形のものを使用する場合は、この限りではない。

### 1365-8-1

住宅用分電盤内に100Vと200Vの分岐回路が混在する場合は200V分岐回路が容易に識別できるように、その過電流遮断器の近い箇所に200Vの表示をすること。

### 3605-4-5

(勧告)

- 住宅の分岐回路用過電流遮断器は、配線用遮断器を使用すること。
- コンセントを有する回路(据置型の大型電気機械器具等への専用回路のものを除く。)に施設する配線用遮断器には、JIS C 8211(2004)「住宅及び類似設備用配線用遮断器」に適合するコード短絡保護用瞬時遮断機能を有するものを使用すること。

(注)コード短絡保護用瞬時遮断機能とは、コード短絡時に周辺可燃物への着火による火災の発生を抑えるため、コードに流れる短絡電流を瞬時に遮断する機能をいう。

## 分岐ブレーカの取り外し・取り付け(パールテクトブレーカ)

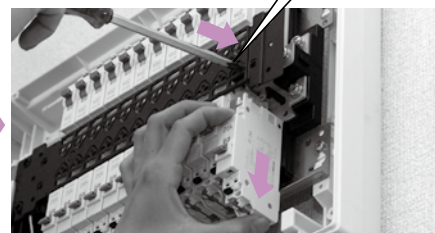
### ■ 取り外し



①取り外すブレーカのロックレバーに指をあてる。



②ロックレバーを引き上げるようにスライドさせてロックを外す。



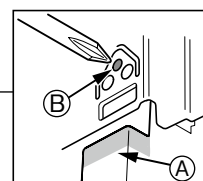
③指をA部にかけて、ブレーカを引きながら、プラスドライバーでB部を押し、ブレーカを取り外す。  
\*プラスドライバーは、2番または3番。  
\*ブレーカの脱落に注意してください。

### ■ 取り付け

①ロックレバーが引き上げた状態であることを確認し、ブレーカをガイドリップの間に置き負荷側から押しして盤面と平行に差し込む。

②ブレーカを確実に差し込んだ後、ロックレバーを押し下げる。

③ロックレバーが最後まで確実に押し下がったか確認をする。



D

スタンダード

オール電化対応

発電システム対応

機能付

E.V.H.V.回路付

官公庁対応

WMボタンスの他

轟分岐ブレーカ

オプション

資料

外形寸法図

生産終了品